

プロジェクト活動概要

プロジェクトの背景

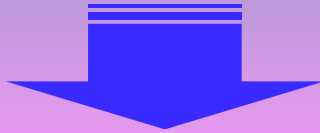
■ ネパールでのEFAゴール

→2015年までにすべての子どもたちが教育システムに組み込まれる

- 学校に行けない約9%の子どもたち(ほとんどが社会的に不利な低カースト、貧困児童、僻地の児童、労働児童など)に代替的学校型教育としてノンフォーマル教育の機会を提供
- 政府主導の子どものためのノンフォーマル教育プロジェクトは行われていたが、全体からみるとあまり効果を挙げていない。また、他の組織のプログラムにおいても「点の成功」であり、普及にいたっていない。

代替的学校型教育プログラムASPがうまくいっていない 主な理由とプロジェクトの対応方針

実施組織の
人材/管理運営能力の不足



実務研修や協働を通じた
管理・運営能力の
向上

プログラムを必要とする
ハードコアの子どもたちには
保護者への啓発を含め、コミュニティ
の理解・サポートが必要



啓発活動を通じたコミュニティの
教育活動への
関わり促進

ASP

関係者間の情報共有が
十分ではなく、よい事例の
活用や協力体制が構築さ
れていない



ネットワーク確立

コミュニティ主体型子どもの
ためのノンフォーマル教育

⇒ **Community-based
ASP(CASP)モデル**

プロジェクトの背景

- 今回のプロジェクトでは、この3つの方向から現在のプログラムの改善に取り組み、コミュニティ主体型ノンフォーマル教育の管理運営モデルをパイロット活動を通して構築し、普及につなげる



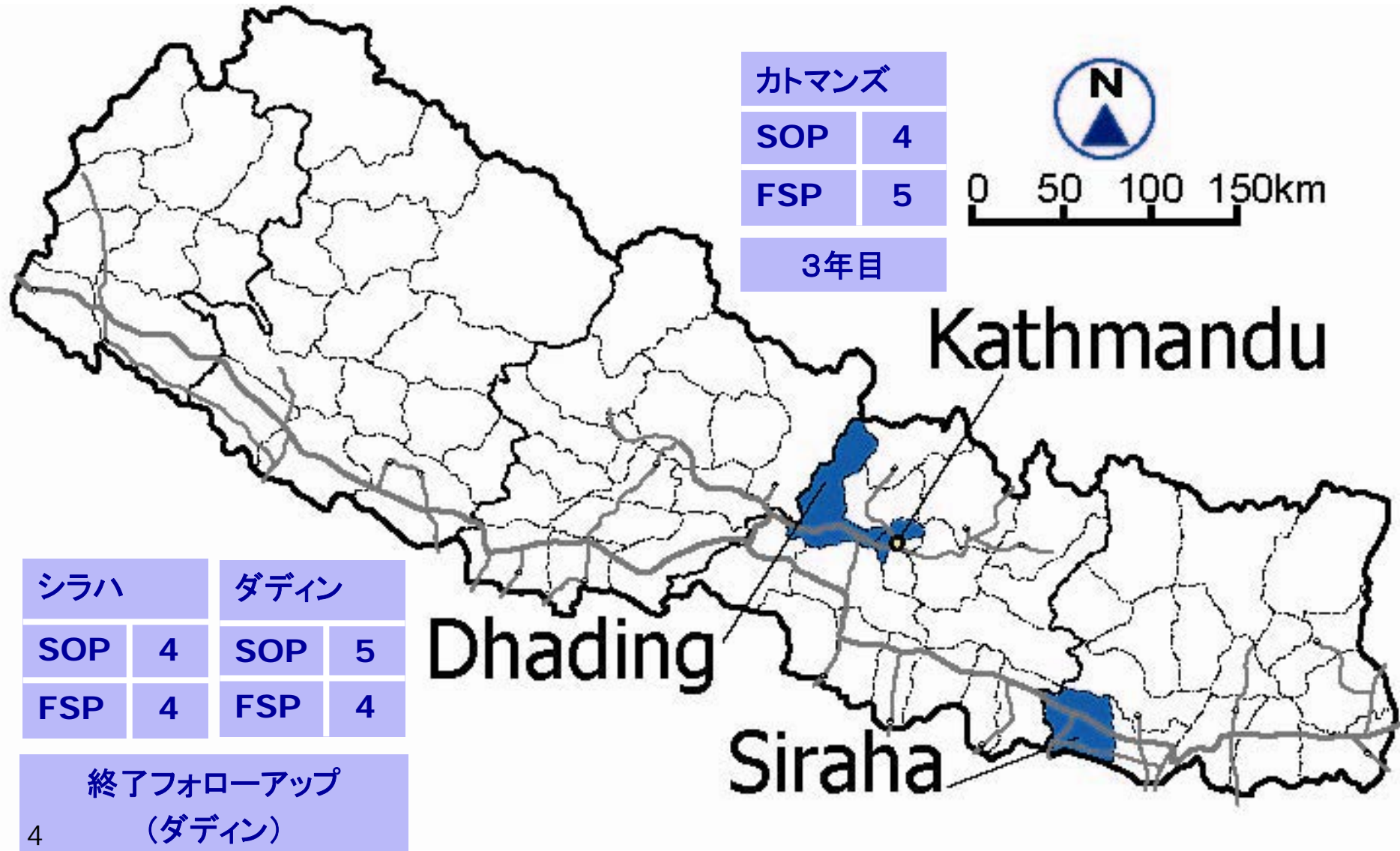
プロジェクトの基礎情報

スーパーゴール	6歳から14歳までの子どもの就学率が上がる
上位目標	プロジェクトで開発されたモデルが他の地区でも普及される
プロジェクト目標	コミュニティ主体型ノンフォーマル教育の管理運営モデルが開発される
実施カウンターパート機関	ノンフォーマル教育センター(NFEC; 中央) 郡教育事務所(DEO; ダディン郡、シラハ郡、カトマンズ郡)

プロジェクトの基礎情報

<p>プロジェクトの 最終受益者</p>	<ul style="list-style-type: none">● 6-14歳の教育システムにアクセスできていない子ども● 地域コミュニティ
<p>プロジェクトの ターゲットグループ</p>	<ul style="list-style-type: none">● 6-14歳の教育システムにアクセスできていない子ども(主に女子や社会的に不利な立場にいる子ども)● 対象地区の地域コミュニティ
<p>プロジェクトの対象 ノンフォーマル教育 プログラム</p>	<ul style="list-style-type: none">● SOP (School Out-reach Programme- 仮設分校型プログラム) 6歳から8歳の子ども対象。3年間で正規教育の1年生から3年生のカリキュラムを修了● FSP (Flexible Schooling Programme- 短縮型初等教育プログラム) 8歳から14歳の子ども対象。3年間で正規教育1-5年生のカリキュラムの凝縮版を修了

CASP のパイロット活動実施地3郡



ネパール政府実施の子どものための ノンフォーマル(代替的学校型)教育プログラムデザイン

Hard to Reach group

1 割弱の6~14 歳の学校へ行っていない子ども

中途退学した子ども

学校へ行っていない・行けていない子ども

“学校へ
歓迎
キャンペーン”
入学時の奨学金
制服・給食など
による
ダイレクトな
取り込み

中途退学児童復学
支援プログラム
教育啓発員の巡回指導
で復学を支援するプロ
グラム(現在半年間)
*2005年プロジェクトの
支援で新規に開発

アクセスの問題

就学年齢を過ぎた問題

Alternative Schooling Program 代替的学校型教育プログラム

仮設分校型プログラム
学校が周辺にない僻地の
6-8歳の児童を対象とし、
3年間で正規の初等教育
カリキュラムの1-3年生まで
修了させ、正規4年生に編入さ
せるプログラム

短縮型初等教育プログラム
8歳-14歳のそれまで
学校に行く機会がなかった
就労児童などを対象とし、
3年間の凝縮カリキュラムで初等
教育5年分のカリキュラムを修了
するというプログラム

4年生に編入

6年生に編入

正 規 初 等 学 校(1~5年→8年へ)

5年生以降用オープンスクール(パイロット段階)

DANIDA 支援
新プログラムへ

第6年次の活動

■ 継続的活動

- TTM技官チーム定例会
- DMM郡教育事務所月例会
- カトマンズ郡パイロット活動
- ダディン郡のフォローアップ活動

■ ワークショップ・研修

- 集中ワークショップ
- スタッフ研修(技術交換研修、バングラデシュ:大規模NGOによる教育運営・タイ:モニタリング評価)
- 共有ワークショップ

■ プロジェクト活動完了に向けて

- パイロット活動を通じた教訓の抽出・とりまとめ
- CASPモデルの具体化と普及についての中長期計画策定



政策提言ワークショップ

政策提案ワークショップのキーポイント

■ EFAゴールとASP(代替的学校型教育プログラム)の重要性の確認

教育省は2015年までに正規教育またはノンフォーマル教育を通して「万人のための教育」のゴールを達成する方針。「hard-to-reach」の子どもたちにとって政府から提供できる方法はASP以外の方法はないと思料。

■ School Sector Reform (SSR)とASP

上のような方針のもとASPはSSRのなかで重く位置づけられるべき。正規教育とともにノンフォーマル教育の必要性はより深く認知されるべき。

■ 地方開発省との連携の重要性

地方開発省はVDC(ネパールの行政最小単位)やNGO調整の責任を負う。「万人のための教育」は教育省だけのコミットメントではなく、開発プロセスの一環として地方開発省の積極的な関与が必要。地方分権化は国方針であり、VDCの開発予算は4倍の割り当てが予定されている。

■ 「hard-to-reach」の子どもたちへの教育アクセスのタイムライン

「hard-to-reach」の子どもたちのすべてが教育を受けられるようになるための具体的なアプローチを、タイムラインを含め決定していく。

■ CASPのパイロット活動の中で特に必要とされる活動

- コミュニティ活性化活動
- 児童クラブの設立
- Education Volunteer (EV, 教育ボランティア) 設置
- Mother School (最寄りの正規学校) を基盤にしたモニタリング
- 定例会での関係者間ASP理解促進と情報交換 (特に予算を必要としない)
- ファシリテーターへの追加研修

■CASPのパイロット活動の中で必要とされる活動の予算配慮

活動には予算が伴うことになる。予算の規模や確保の方法について議論し、予算確保に向けての提案をまとめた。政策レベル・中央地方開発省 (MoLD) とコストシェアの合意、現場レベル (DDC やVDC) での調整が重要になる。

Policy Recommendation from Community-based Alternative Schooling Project (CASP) Experience

Suggestion from working group DRAFT

Step No. of draft Guideline	ASP Guideline Activity	Regular Budget (NRs)	Additional Cost Estimate (NRs)	Budget Coordination	Remarks
0	Monthly meeting at NFEC				
0	Monthly meeting at DEO level				
1	Needs assessment				
2	Site selection		1,000.00		
3	Partner NGO and CBO selection				
4	Orientation program		5,725.00		only for first year
5	Formation Class Management Committee		770		
6	Facilitator selection				
7	Education Volunteer selection		570		
8	Arrangement of learning environment (management cost)	2,000.00	10,000.00	MoLD, DDC	when class established (only for first year)
	(management cost)	6,000.00	27,920.00	MoLD, DDC	Additional for stationeries, uniform, bag and tin box for class
	(educational materials)	3,000.00			<i>total for SOP NPR 5,000/year FSP NPR 3,000/year</i>
9	Community mobilization (Child club activities)		2,705.00	MoLD, DDC	
	(Incentives and awards for ASP children)		1,000.00	MoLD, DDC	
	(Mass communication and education campaign)		1,000.00	MoLD, DDC	
	(Interactive between ASP children and mother school students)		1,400.00	MoLD, DDC	
10	Providing textbooks (educational materials/SOP)	2,000.00			<i>total for SOP NPR 5,000/year</i>
	(educational materials/FSP)	0			<i>total for FSP NPR 3,000/year</i>
11	Monitoring system (regular monitoring/month)		4,800.00		
	(ASPM Workshop)		1,000.00		
12	Facilitator support (Pre-service training)	28,050.00			15 days for 1st year
	(In-service training)	9,350.00			5 days for 2nd and 3rd year
	(Additional training)		18,700.00		2 times each year
13	Preparation for post ASP				
-	Facilitator remuneration	26,000.00			
		50,400.00	76,590.00	Total	126,990.00

ASPガイドライン2009年2月版ドラフト

Alternative Schooling Program Guideline

Table of contents

Abbreviations

目次より

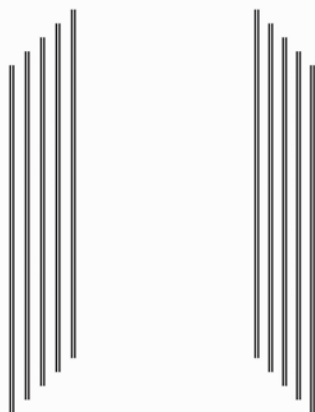
Instruction for Users

Procedure of activities

Activities	Implementation plan/schedule	page
NFEC Technical Meeting	Regularly	1
District Education Office Monthly Meeting	Regularly	2
EP		
EP 1 Site Selection Process	Before class start Pous- Magh	4
EP 2 Partner NGO/CBO Selection	Magh	6
EP 3 Orientation Program	Magh- Fagun	12
EP 4 Formation of Class Management Committee (CMC)	Magh- Fagun	15
EP 5 Facilitator Selection	by Chaitra	17
EP 6 Educational Volunteers (EVs) Selection	by Chaitra	20
EP 7 Arrangement of Learning Environment	by Chaitra and continuously	22
EP 8 Community Mobilization	3 years after orientation program	26
EP 9 Providing Text-materials	by Baishaku of each 3 years	30
EP 10 Monitoring System	3 years from Baishakh Regularly	33
EP 11 Facilitator Support	3 years from Baishakh Regularly	36
EP 12 Preparation for after ASP Classes	the 3rd year around Fargun	38

Draft February 2009 version

Alternative Schooling Program Guideline



Ministry of Education
Non-Forman Education Center
Japan International Cooperation Agency/
Community-based Alternative Schooling Project

第7年次の活動

プロジェクトの流れ

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
	パイロット活動準備	シラハ・ダディン郡パイロット活動				
		パイロット活動準備	カトマンズ郡パイロット活動			
					パイロット活動	フォローアップ
						プロジェクト 完了作業

現時点

■ 継続的活動

- TTM技官チーム定例会
- DMM郡教育事務所月例会
- カトマンズ郡・ダディン郡のフォローアップ活動

■ ワークショップ・研修

- 共有ワークショップ
- スタッフ研修(タイ)

■ プロジェクト活動完了に向けて

- プロジェクトのとりまとめ(「ASPガイドライン」完成)
- 終了時評価

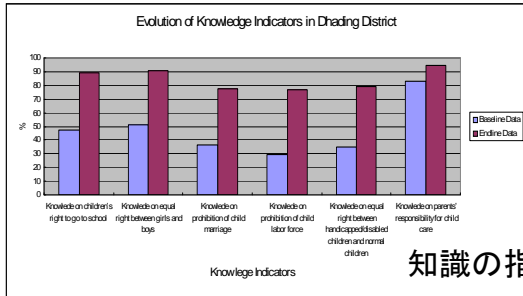


パイロット活動を通じた成果

■ エンドライン調査

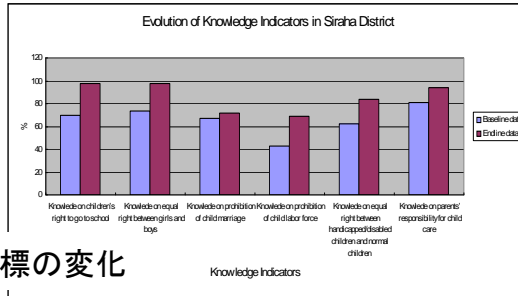
□ 保護者の子どもの教育・権利に関する知識・態度・行動の改善

ダディン郡

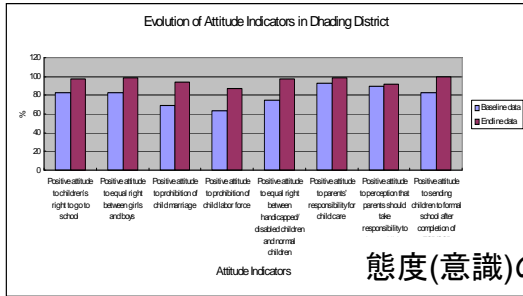


知識の指標の変化

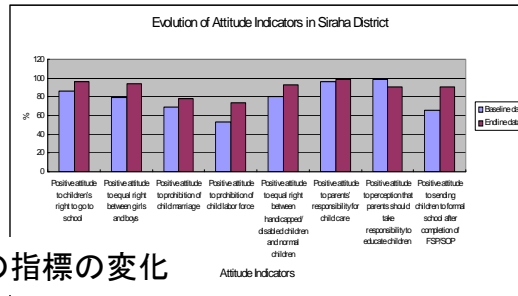
シラハ郡



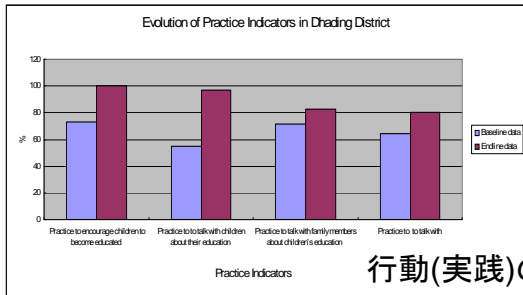
知識の指標の変化



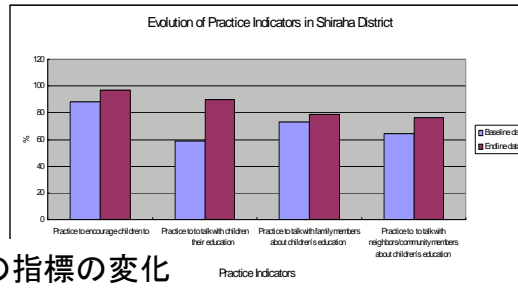
態度(意識)の指標の変化



態度(意識)の指標の変化



行動(実践)の指標の変化



行動(実践)の指標の変化

①ダディン郡では指標データの伸び率が高い⇒継続的に実施してきた各種コミュニティ活動の影響と推定

②指標データと関連性が強かったもの:
 ・優秀な生徒へのインセンティブの提供
 ・コミュニティと子どもとの相互交流プログラム
 ・コミュニティによる学校施設へのサポート

特にダリットなど社会的弱者の各指標データと関連性が強かったもの:

・児童クラブの結成
 ・子どもの権利に関する啓発ワークショップ
 ・関係者間の交流プログラム
 ・優秀な生徒へのインセンティブの提供

■ エンドライン調査

□ プロジェクト全体の効果の検証

目的: プロジェクト成果1や2に関係しており、CASPによるASPが実際にどのようなものであったか(質や効果など)、CASPによるASPを修了した生徒が現在どのような状況にいるのかを調査。一般的なASPと比べ、CASPによるASPはどのような成果を出し、その成果に影響した要因は何であったかを検証。

成果に影響した主な要因:

コミュニティベースの活動(特に親への啓発活動・活動実施の際のローカルNGOとの連携を含む)、モニタリングシステムの構築(正規教育関係者との連携)、ファシリテーターへの追加研修、EV(教育ボランティア)の投入、児童クラブなど課外活動の実施、子どもに対する支援(制服や文具の配布など)
→ASPの出席率&修了率、正規学校への進学・編入率、こどもの学習能力・態度、親の知識・態度・行動の変化、幾つかのSOPが正規の分校に。

改善に向けての主な配慮事項:

ファシリテーターの待遇と資格、授業時間(特にFSP)、正規学校の負担

⇒両エンドライン調査は次年度カトマンス郡で実施

■ ダディン郡

- 9カ所のパイロット活動対象地域のうち7カ所にコミュニティ運営学校が設立された
- 進学・編入率

3年生まで在学した子どもは100%
1年生に入学した子どものうち69% (SOP75%
FSP62%)

⇒ 今後、SISMやJICA無償ヘイグジット戦略として
つなげる可能性をJICAの担当関係者と検討中



■ シラハ郡

- 進学・編入率

3年生まで在学した子ども90%(SOP100% FSP80%)
1年生に入学した子どものうち66% (SOP78%
FSP54%)



■ カトマンズ郡

- 平均出席率79% (SOP平均77% FSP平均81%)



■ コミュニティ啓発活動

- 協働NGOとともに行う活動
- 村役場、郡役場、地域の有志、篤実家などからの土地・建材提供など教室建設支援
教育ボランティアの給与提供
制服、バッグ、文房具、教材の配布
健康検査実施など

➡ASPガイドラインへ(STEP8 コミュニティ活性化 等)



■ 最寄りの正規学校とのリンク強化

モニタリングと正規学校との訪問プログラムの実施によって編入前から受入予定校の教員が子どもの情報を事前に得られる

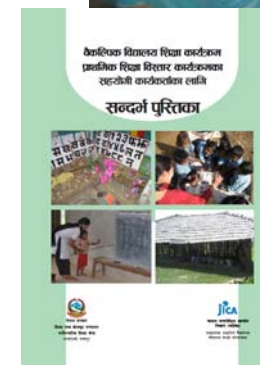
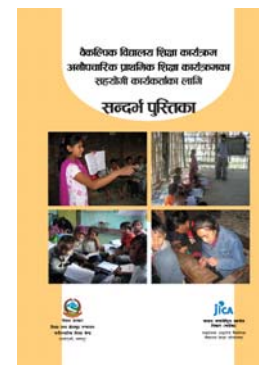
➡ASPガイドラインへ(STEP10 モニタリングシステム 等)



■ ファシリテーターへの投入

- ファシリテーターの教授能力向上・自信獲得
- ASP教室の子どもも正規教育同様効果的に学ぶことができる

➡ASPガイドラインへ(STEP11
ファシリテーター支援)



■ 関係者の教育の重要性への気づき

教室支援を通して、教室運営委員会委員、保護者、地域の人々が恒常的な子どもの教育機会の重要性に目覚めていく

➡ASPガイドラインへ (STEP3 オリエンテーションプログラム
STEP 8 コミュニティ活性化 等)

■ 教育行政関係者へのアドボカシー

教室支援を通して、教育局、関係ドナーなどへのEFAの中の子どものためのノンフォーマル教育再認識・再考の機会を創出



関係者間ネットワークの構築

子どものためのノンフォーマル教育ネットワーク強化のたたき台

情報発信の定例習慣化

郡教育事務所のニューズレター発行支援



ダディン郡



カトマンズ郡

パイロット活動を通じた教訓

■ 正規教育との連携

(子どものためのノンフォーマル教育は非常に正規教育に近い)

現場レベルの連携の強化とシステム化

正規教育統括の教育局とノンフォーマル教育センターの
調整ミーティング

■ ファシリテーターの待遇改善の必要性

ASPの教育の質の維持のため、ファシリテーターは重要

■ 都市部FSP教室を取り巻く保護者・コミュニティ 関与促進の難しさ

コミュニティ・モービライゼーション活動のための、
協働NGO・教室運営委員会委員・地域関係者間の
協力調整促進

■ コミュニティ・モービライゼーションのメカニズム

ASPにおけるコミュニティ・モービライゼーション活動での
NGOの役割・活動の整理

ノンフォーマル教育センターが展開していくコミュニティ
学習センター：CLCを通しての展開指針

- **子どものためのノンフォーマル教育のリソースの絶対的不足**
 - SSR (School Sector Reform) に向け、最後のHard to Reachをなくす優先の強調
 - 9%が就学していないのに、正規教育に対して0.5%以下の予算投入。NFECの組織力の弱さもあって予算の確保に改善なし
 - もとより学校がないために就学機会がないSOP対象コミュニティに永続的なプログラム提供が出来ない
 - ドナー会議・合同調整員会・その他の機会でもリソース確保の働きかけ強化

ハードコアグループの子どもたちの就学機会拡充を願いつつ

